

## みんなの伝芸 launch party

### 「イニムサニム コッカラだ！」

12月27日開催

「ここから、新しい伝芸ワールドがはじまる」

12月27日に開催される「みんなの伝芸 Launch Party イニムサニム コッカラだ！」は、11月30日より始動したYoutube番組「みんなの伝芸」を紹介するとともに、みんなの伝芸の旗揚げを盛大に祝うスペシャルイベントとなります。伝統芸能・民俗芸能・郷土芸能、プロアマ問わず、それぞれが守りたいもの受け継いだもの、伝統を感じるライブ。文字通り、たくさんの「みんな」に来ていただきたいです。

【Webページ】 <https://www.youtube.com/@minnano.dengei>



# みんなの伝芸

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

株式会社エヴォリューション 担当：西浦 TEL：070-1497-9352 MAIL：minna.no.den.gei@gmail.com

## みんなの伝芸 Launch Party イニムサニム コッカラだ！

Youtube番組「みんなの伝芸」を紹介するとともに、みんなの伝芸の旗揚げを盛大に祝うスペシャルイベントとなります。伝統芸能・民俗芸能・郷土芸能、プロアマ問わず、それぞれが守りたいもの受け継いだもの、伝統を感じるライブ。

[出演] 浅野祥（津軽三味線）/斎藤ぽん(にやんとこ)（秋田万歳）/武田朋子（篠笛奏者）/望月左太助（邦楽林方）/中里真央（フラメンコ）/澄川武史（横笛奏者 石見神楽 島根県西部）/山岸佑司（長崎獅子蓮 東京都豊島区）/俵野枝（女優 日本舞踊）/林幹（伝統大好き太鼓奏者）/小岩秀太郎（目ぢから系伝統解説委員長）/長岡参（みん伝芸言い出しゅべ映像作家）/トム・ヴィンセント（お祭り大好き謎の英国人）

### 【開催概要】

イベント名称：「みんなの伝芸 Launch Party イニムサニム コッカラだ！」

開催期間： 2023年12月27日（水）開場17:00 開演18:00

開催場所： 晴れたら空に豆まいて（150-0034 東京都渋谷区代官山町20-20 モンシェリ一代官山B2  
Tel: 03 5456 8880 Fax: 03 5456 8881）

店舗HP：<http://haremame.com/>

入場料： 小学生以下 無料

25歳以下： ¥1,500

前売り： ¥4,000

当日： ¥4,500

（各+1d¥600別途必須）

予約

tel: 03 5456 8880

Email: [reserve@mameromantic.com](mailto:reserve@mameromantic.com)

### みんなの伝芸について

「みんなの伝芸」は、伝統芸能・民俗芸能・郷土芸能などこれら諸芸能(伝芸)を、分かりやすく、親しみやすくするためのオンライン番組です。

これらの諸芸能は、どことなくとつづきづらいような感覚を一般的には持たれているように思いますが、そこには実は私たち（みんな）にとってとても大切なものが、ぎゅうっと詰め込まれていると思うのです。

少子高齢化やコロナ禍などが祭礼や芸能の世界にも影響を与えており、残念なことに少なからぬ数のものが消滅してしまいました。そしてそれらは一度失ってしまえば二度と取り返しのつかないものです。

年配の方々だけではなく若い世代も合わせてみんなが、更に下の世代へと、時代の変化に応じた新しい方法で伝えていかないといけない。

みんなの伝芸は、そういう思いを持った有志があつまり始まりました。

これから日本全国、国内外の素晴らしいゲストの方たちをおよびし、レギュラー陣とのトークや、実際の演奏（演舞）の他、各地へ口ヶに出向き、さまざまな分野の伝承者・継承者などを取材。お茶の間に、そしてお手元に、みんなに伝えていきます。

トーク番組、ライブイベント、コミュニティ企画、ドキュメンタリー映像などをこれまでにない形で発信していくので、「みんなの伝芸」に是非ご期待ください。演奏者、伝承者、関係者、そして日本国内外の伝芸ファンやサポーターと共に、今こそもう一度伝芸を「みんな」の手の取り戻す時です。

<https://www.youtube.com/@minnano.dengei>

＜報道関係の方からのお問い合わせ先＞

株式会社エヴォリューション 担当：西浦 TEL：070-1497-9352 MAIL：minna.no.den.gei@gmail.com

## みんなの伝芸 Launch Party 出演者紹介

### 浅野祥

宮城県仙台市出身 | 1990年3月2日生まれ

仙台第一高等学校 | 慶應義塾大学 卒業

祖父の影響により、3歳で和太鼓、5歳で津軽三味線を始める。

その後、三絃小田島流 二代目小田島徳旺氏に師事。

7歳の時、青森県弘前市で開催される津軽三味線全国大会に最年少出場し、翌年から各級の最年少優勝記録を次々と塗り替える。2004年 津軽三味線全国大会、最高峰のA級で最年少優勝（当時14歳）その後、2006年まで連続優勝し、3連覇を達成。同大会の規定により、殿堂入りを果たす。※津軽三味線世界大会（旧大会名：津軽三味線全国大会）

2007年17歳でピクターエンターテインメントより「祥風」でメジャーデビュー。以降、コンセルトヘボウ（オランダ）、ケネディ・センター（アメリカ）でのコンサートをはじめ、アメリカ、ヨーロッパ、カナダ、アジア各国でコンサートツアーを行うなど、海外に向けても積極的に発信する。

### 斎藤ぽん(にやんとこ)

『祝福芸 秋田万歳』秋田県秋田市出身。

イラストレーター・踊り口。お祭り、盆踊り、民俗芸能、民謡を愛する『にやんとこ』の代表。

1970年代、秋田万歳最後の伝承者だった加賀久之助・吉田辰巳両氏の没後弟子として2020年1月～活動。両氏のしきたりを守り、秋田万歳の儀式万歳全十二段(家建、経文揃、神力、大峰、御国、双六、扇、御江戸、本願寺、吉原、桜、御門開)を全て覚えてから門付／座敷万歳を始める。

2022年1月、雪深い秋田を門付して歩く。人々の長寿・繁栄・ご多幸を願い日々、稽古に励む。中野区大和町八幡神社(東京)、ブックギャラリーポポタム(東京)、木木木座浄土寺店(京都)、彫刻家 沢田英男 個展(Nunuka life／京都)他多数にて実演

### 武田朋子

江戸囃子の太鼓・笛を習得し、「鼓童」文化財団研修所にて研修を修了。能管を能楽の笛方・一唄幸弘氏に師事。祭り囃子や古典芸能をベースとしたオリジナル曲を得意とし、数多くの作品を生み出している。ゆず、石川さゆり、大友克洋作の映画『火要鎮』など、様々なレコーディングに篠笛や能管で参加。上海万博、アスタナ万博、平昌オリンピック公式文化行事に参加するなど海外演奏も多数。堂本光一&井上芳雄 主演のミュージカル『ナイトテイル』に笛奏者として出演するなど、舞台作品での演奏も多く手がけ、日本各地、世界各地で幅広く活動中。

### 望月左太助

幼少期より和太鼓を始め、邦楽囃子を望月左太郎、長唄を東音味見純に師事。2019年、東京藝術大学邦楽科卒業。浄観賞、安宅賞、アカンサス音楽賞を受賞。（社）長唄協会会員、チリカラ伍同人。

国内外の長唄演奏会、舞踊会で囃子方として活動し「平成中村座スペイン公演」「野村萬斎主演 現代能安倍晴明」などに参加。

2017年平昌オリンピック冬季競技大会開幕記念セレモニーにて日本代表として演奏。

古典公演で活動する一方、NHK大河ドラマやEテレなどにも鳴物で出演。

幅広く活動の場を広げている。

### 中里真央

東京都出身。フラメンコダンサー/シンガー。12歳より鍵田真由美・佐藤浩希にフラメンコを師事。

幼少期をボストンで過ごし、声優、版画作家の経験を経て、多摩美術大学在籍中の2015年より鍵田真由美・佐藤浩希フラメンコ舞踊団アルテイソレラに入団。スペイン3都市を巡る「カスティーリヤ・ラ・マンチャツア」、平成天皇皇后両陛下の御臨席を賜った新国立劇場「Ay曾根崎心中」などに出演。歌い手としても、山田洋次監督作品「妻よ薔薇のように 家族はつらいよIII」、日生劇場「ミュージカルGOYA」、松竹座花形歌舞伎「GOEMON」、「スペイン版ゴットタレント」に出演するなど、活動の幅を広げている。2020年度河上鈴子スペイン舞踊新人賞(踊り) 2022年度ANIF新人公演カンテ部門奨励賞(歌) 2023年度4回全日本フラメンココンクールカンテ部門優勝(歌) 2023年度ANIF新人公演バイレ部門奨励賞(踊り)

### 澄川武史

島根県西部につたわる郷土芸能「石見神楽」をルーツに持つ横笛奏者。島根県益田市出身。幼い頃より同市の高津神楽社中に所属し、石見神楽の舞子及び楽人を務める。現在は都内にて、藤舎武史の名で横笛の演奏活動を行う。桐朋学園芸術短期大学日本音楽専修卒業。同大学にて笛を西川浩平師に師事。東京藝術大学別科邦楽囃子(笛)修了。笛を中川善雄師に師事。邦楽演奏会、日本舞踊会、落語会のほか、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」「青天を衝け」に出演。新作歌舞伎「刀剣乱舞」、宮本亞門演出の奉納劇、映画劇中音楽の演奏など、他ジャンルとの共演も行っている。2022年、島根県ふるさと親善大使「遣島使」に就任。

＜報道関係の方からのお問い合わせ先＞

株式会社エヴォリューション 担当：西浦 TEL：070-1497-9352 MAIL：minna.no.den.gei@gmail.com

## 山岸佑司

長崎獅子舞。元禄年間から伝承される豊島区の郷土芸能。

旧長崎村の人々は村の鎮守である現在の長崎神社に集い、悪疫災厄退散、五穀豊穣、雨乞い、厄除け、天下泰平を祈り獅子舞を演じてきた。漆黒の地鳥の羽を背に負った木彫りの竜頭をかぶり、腹に太鼓をつけた若者が勇壮に舞い踊る。毎年5月第2日曜に長崎神社の例大祭で演じられている。

長崎獅子連、次世代のリーダー。曾祖父が舞手であったこともあり小学5年生(10歳)から練習に参加。現在24歳。地域の学生への舞の指導や小学校の地域学習の授業、講演会などを行っている。

「長崎の街に生まれ育ったことを誇りに思う。みんなが親しみを持って参加できる伝統文化として、長崎獅子舞を次の世代に繋げていきたい。」という思いで活動する。2022年長岡参監督作品、オムニバス形式ドキュメンタリー映画『音、鳴りやまぬ。』に出演。

## 俵野枝

日本大学芸術学部/ UPS ACADEMY卒業

女優として奈良橋陽子に師事

地唄舞舞手として桐崎鶴女に師事

大河ドラマ「せごどん」他、舞台・映画・ドラマに出演。

主演映画「あわうた」(長岡参監督)は第41回ポルト国際映画祭で二冠を獲得。

今年上演のDiana Son不朽の名作「stop kiss」では、主人公サラ役を好演した。

また、舞を軸とするソロパフォーマーとして2006年よりオリジナル作品を手掛け、ポルトガルCCB招聘やタイ王国王妃・王子へ舞の献上などもしている。

## 林 幹

大学在籍中より太鼓演奏のキャリアを本格化させながら、単独で郷土芸能を訪ね地元の保存会に通い学ぶ。2010年ソロアルバム「molecule」リリース。2012年大太鼓打込みプロジェクト「うねり」始動。2015年「NHKスペシャル京都御所」参加。2017年・2021年、八神純子「ヤガ祭り」出演。ライブ、写真、イラスト、イベントプロデュース、楽曲製作、講師活動や教育機関での指導、スタジオワーク等、活動は多岐に亘る。全日本郷土芸能協会会員。

## 小岩秀太郎

(公社)全日本郷土芸能協会 常務理事 | 縦糸横糸合同会社 代表社員

1977年岩手県一関市舞川出身。郷土芸能「鹿踊(しおどり)」伝承者。全日本郷土芸能協会に入職し、郷土芸能の魅力発信、復興支援、コーディネートに携わる。東日本大震災を契機に、地域と都市を芸能でつなぐ「東京鹿踊」プロジェクト、ならびに東北で「縦糸横糸合同会社」を立ち上げる。地域に伝わる“縦糸”と現代軸の“横糸”を繋り合わせ、次世代へ伝達する方法を企画・実践している。

## 長岡 参

映像作家。千葉県四街道市生れ。

東京でフリーランスとして様々なクリエイティブの仕事に従事した後、カメラ一つ抱えた旅にでるため2010年に拠点を徳島県神山町に移し、様々な映像制作を開始。代表作として全国の限界集落を探訪したドキュメンタリー映画『産土』や、6年間に渡り1人の老美容師を追い続けた『神山アローン』、フィクション作品『あわうた』等がある。株式会社EVOLUTION取締役。合同会社長岡活動写真館代表社員。

## トム・ヴィンセント

イギリスロンドン生まれ。クリエイティブディレクター。滋賀県蒲生郡日野町を本拠地とし、企業や政府、自治体のコンセプト戦略づくりからブランディング、プロモーション及びメディアやコンテンツの制作などを行っている。株式会社トノループネットワークス代表取締役。株式会社EVOLUTION取締役。ヒノブルーイング株式会社取締役。京都芸術大学大学院文化デザイン・芸術教育領域非常勤教員。

浅野祥



斎藤ばん(にやん)



武田朋子



望月左太助



中里眞央



澄川武史



山岸佑司



俵野枝



林 幹



小岩秀太郎



長岡 参



トム・ヴィンセント



<報道関係の方からのお問い合わせ先>

株式会社エヴォリューション 担当：西浦 TEL：070-1497-9352 MAIL：minna.no.den.gei@gmail.com



## Documentaries as Gifts for Society

一体ドキュメンタリーとは、なんのために存在しているのだろうか？

それは字義通り記録のためか？感動をもたらす装置としての物語？或いはその双方？——私たちは世界中を駆け回って“真実”を探すべきなのか？けれど“真実”は追えば追うほど逃げていくし、すべてを語り尽くすことなど人には到底出来やしない。——私たちはあらゆる物事の「良し悪し」を裁定するべきなのか？誰かに肩入れして、他の誰かを否定するべきなのか？不義不正を暴く正義の鉄槌となるべきか？——救われぬ弱者をひたすら慰撫するべきか？——或いは難しい話は抜きにして、可愛らしい小話や、笑えるゴシップの類を作るべきか？…流行りに過剰に迎合する必要はないが、つまらなければ誰にも見向きすらされないだろう？——よく言われるよう作者が壁のシミのように存在感を消せるなら、それにこしたことはない。だが、「絶対的な客観」などありえない以上、いっそのこと作者の自己表現をどこまでも追求してみたらどうか？……。

あらゆる表現様式と同じく、映像もまた社会と無関係ではいられない。それがドキュメンタリーなら尚更そうだ。私たちは本質を直視して、肚を括ってこう言ってみることにする。——ドキュメンタリーとは、社会へのギフトとなるために存在するのだと。「ギフト」とは、人々が自分で何かを考え、自分自身と社会とをポジティブに進化させていくための材料の詰め合わせのようなものだ。それはひとつの贈り物であり、恩恵でもある。まるで未だ見ぬ孫の代へと向け木を植える風変わりな仙人のように、私たちは愚直に、そして一徹に、社会に向けてギフトを作る。長編映画だろと短いコマーシャルだろと、その精神が貫かれているものを私たちは「作品」と呼び、そういうものを作る人間を「作家」と呼ぶ。

夢見がちな私たちが作りたいのは、「社会へのギフト」というパッションが充填されたバトンだ。バトンはバトンである以上、次へとつながれいかねばならない。だから私たちは種を蒔き、新しい「作家」を育て、愚直に、そして一徹に、人から人へとバトンをつなぐ。作り出すギフトに、一片の価値があると信じて。

### 【会社概要】

社名： 株式会社エヴォリューション  
本社所在地： 150-0042 東京都杉並区南荻窪2-23-11南荻窪ニューパールハイツ 205  
代表取締役： 西森信三  
事業内容： ドキュメンタリー映像制作  
HP： <https://evcafe.co.jp/>



# みんなの伝芸

＜報道関係の方からのお問い合わせ先＞

株式会社エヴォリューション 担当：西浦 TEL：070-1497-9352 MAIL：minna.no.den.gei@gmail.com